巻頭特集

岐阜県立羽島高校書道部

一筆に込めた集大成

「ぎふ羽島駅前フェス」で毎年パフォーマンスを披露している岐阜県立羽島高校書道部。華やかで迫力ある演技を楽しみにしていた読者は多かっただろう。

しかしコロナ禍の影響で、昨年に続き今年もイベント開催の中止が決定。部員たちは唯一の披露の場となった文化祭に向け、パフォーマンスを磨いている。

大会や展覧会へ積極的に参加 成長を実感できる機会を作る

8月上旬、岐阜県立羽島高校書道部を訪ねると、凛々しい袴姿の3年生を筆頭に、練習に精を出す部員たちが笑顔で出迎えてくれた。「お願いします」の掛け声から和気あいあいとした空気は一変、真剣な雰囲気に包まれた。

教室いっぱいに広げられた紙に、部員たちが入れ代わり立ち代わり交代しながら、筆を走らせていく。迷いのない手つきで書き連ねた言葉に、霧吹きで彩りが添えられる。下書きなしの一発勝負で少しずつ美しい作品が出来上がっていく様子は、一瞬たりとも目が離せない。

音楽などに合わせチームで演技をしながら、巨大な紙に文字や絵を表現する書道パフォーマンス。2008年に第1回の「書道パフォーマンス甲子園」が開催後、2010年に公開された映画「書道ガールズ!!わたしたちの甲子園」がきっかけで人気に火がついた。

講師の増井希先生によると、羽島高校書道部でも増井先生が講師となった2016年より前から書道パフォーマンスに取り組んでいたそう。ただ、当時部員数はわずか2人で、集団演技である書道パフォーマンスに力を注げる状況ではなかった。

講師 増井希先生

書道を始めたのは大学生のころから。努力を重ねて日展で入選した経験が指導にも生きているという。昨年には「新古今和歌集の歌」で2度目の日展入選を果たした

部長（3年生）岡本真子さん

書道で自分を表現したいと、小学2年生から習い始めた。「努力した分成果が出る。結果が返ってくるのがうれしい」と書道の魅力を語る

部員の数が増え、活動が軌道に乗り始めると、積極的に各種の大会や展覧会に出品するように。「自分が認められる機会をいっぱい作ってあげたい。そうすれば、自分自身に自信がつく」と増井先生。令和2年度の結果を見ると、長い休校期間の影響で活動時間が限られたなか、「岐阜県高校書道展」での優秀賞をはじめ、努力の成果がずらりと並ぶ。「最初から上手な子はいません。練習を重ねると、結果がついてきます。努力は無駄じゃないと理解してもらえたら」と願いを込める。

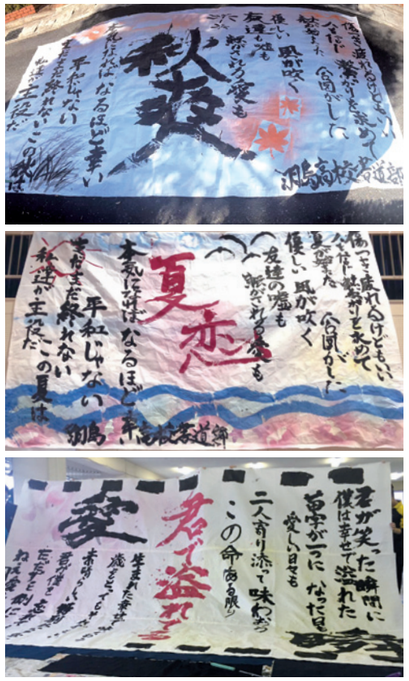
培ったチームワークで最高のパフォーマンスを

書道の表現は大きく臨書と創作に分けられる。古典作品を見て習う臨書は書道の基本。まずは忠実に真似ることから始まり（形臨）、筆者の意図を汲みとって（意臨）、そして自分のものとして取り込んでいく（背臨）。「書にはそれぞれ個性があり、その人の生き方があらわれているんです」と増井先生は書道の面白さを教えてくれた。

心を落ち着けて、静かに書に向き合う。個人で作品に取り組むイメージが強い書道だが、羽島高校書道部では初心者も経験者も関係なく、互いに高め合っていける雰囲気が整っている。週3日の練習の合間には、自然と部員同士が話し合い、作品のアドバイスを交わす。個別で練習しながらも培われた連帯感が、団体演技の書道パフォーマンスで生かされている。パフォーマンスのメーンは3年生が担うものの、総勢25人の部員一人ひとりに何かしら役割がある点も、チームワークが高まる理由かもしれない。

部員全員で案を考え、2019年のぎふ羽島駅前フェスでは「秋爽」、昨年の文化祭では「君で溢れてる」など、これまでさまざまな演技を披露してきたが、今回の作品では友情や恋愛についてなど、色々な意味を込めたメッセージを選んだという。パフォーマンスの最後を躍動感ある「舞」の一字で締めたのは、部長の岡本真子さん。「3年生にとっては最後の文化祭。学校生活を楽しめたなと思えるように、みんな笑顔で終わりたい」と意気込みを話す。増井先生は、「3年生の部員の中には、卒業後も続けたいからと、書道教室を探すと言ってくれている子もいます。書道は生涯を通じて学び続けられる。いつか展覧会で賞をいただいた生徒と、祝賀会で会えたらうれしいですね」と笑みを見せる。

かけがえのない高校生活を後悔しないように、この状況下で今できる精一杯を。できないことを嘆くのではなく、できることに全力を傾けた経験は、今後の人生において貴重な財産となるだろう。羽島高校の文化祭は9月2日、3日の2日間にわたって行われる予定。残念ながら非公開のため私たちが最後の舞台を目にする機会はないが、3年生たちが有終の美を飾ることを願ってやまない。



上から順番に2019年ぎふ羽島駅前フェス、同年文化祭、2020年文化祭での書道パフォーマンス作品。「ぎふ羽島駅前フェスでは、地域の方から『よかったよ』と声をかけていただけるのがうれしい」と増井先生。来年こそ演技を目にする機会があれば、温かくパフォーマンスを見守りたい

1年生12人、2年生3人、3年生10人の合計25人。袴は先輩から後輩へ、代々受け継がれている

今回『はしまる』のために披露してくれた書道パフォーマンス。文化祭では黒い紙に白墨汁で書をしたため、まったく異なる雰囲気の作品に仕上げる予定

Information 岐阜県立羽島高校 ☎058-392-2500

文／髙﨑千紗登　デザイン／ABBEY ROAD